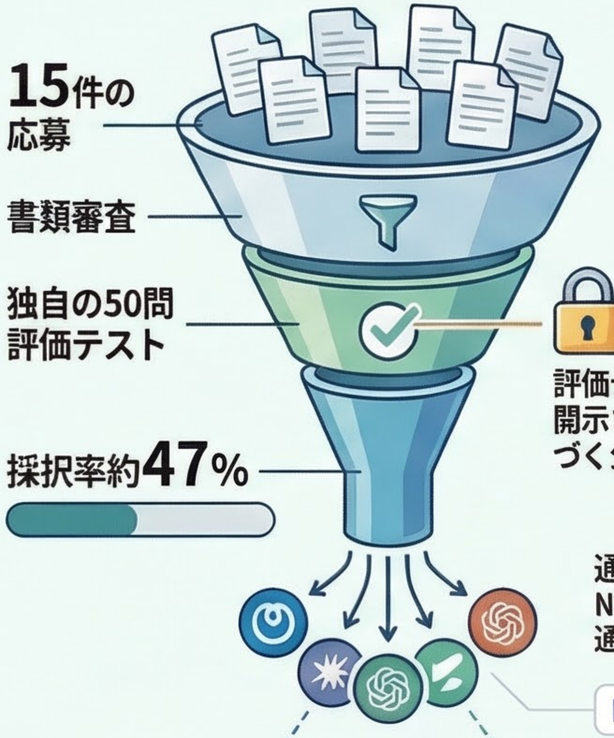
日本のAI主権が動き出す：ガバメントAI「源内」国産LLM選定の全貌

厳格な選定プロセスと採択された7つのモデル



事前学習を防ぐ「当日開示テスト」

評価テストの内容は試験当日に開示され、品質とエビデンスに基づく公正な選抜が行われました。

通信大手から新興企業まで多様な顔ぶれ: NTT、PFN、NEC、KDDI、ソフトバンク、富士通に加え、スタートアップも選出されています。

NEC　KDDI　ソフトバンク　富士通

NTT
tsuzumi 2
1GPUで動作可能な軽量設計
GPT-5級の性能

PFN
PLaMo 2.0 Prime
世界最高クラスの日本語性能を誇る独自モデル

カスタマークラウド
CC Gov-LLM
7社中唯一のスタートアップによる行政特化設計

18万人規模の実装と今後のロードマップ

2026年8月, 全職員による試用開始

約18万人の政府職員

業務に応じて米国製モデルと国産モデルを使い分けます。

データ主権を確保する「国内稼働」

機密情報を投うため、海外サーバーを経由しないガバメントクラウド上での運用を徹底します。

2027年4月, 本格的な有償調達へ

試用結果に基づき、優れたモデルは次年度から正式な政府調達へと移行します。